

令和3年度 多様な新ニーズに対応する 「がん専門医療人材(がんプロフェッショナル)」養成プラン インテンシブコースセミナー

日 時: 2021年11月9日(火) 18:00~19:30

場 所: 兵庫県立大学遠隔講義室(Zoom)

テーマ: がんゲノム医療における分子生物学的特徴に基づいた治療戦略 ~婦人科腫瘍を中心に~

講 師: 平沢 晃先生(岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 臨床遺伝子医療学 教授)

受講者: 69名(アンケート回収率 67.3%)

主 催: 兵庫県立大学看護学研究科 多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材(がんプロフェッショナル)」養成プラン代表 川崎 優子

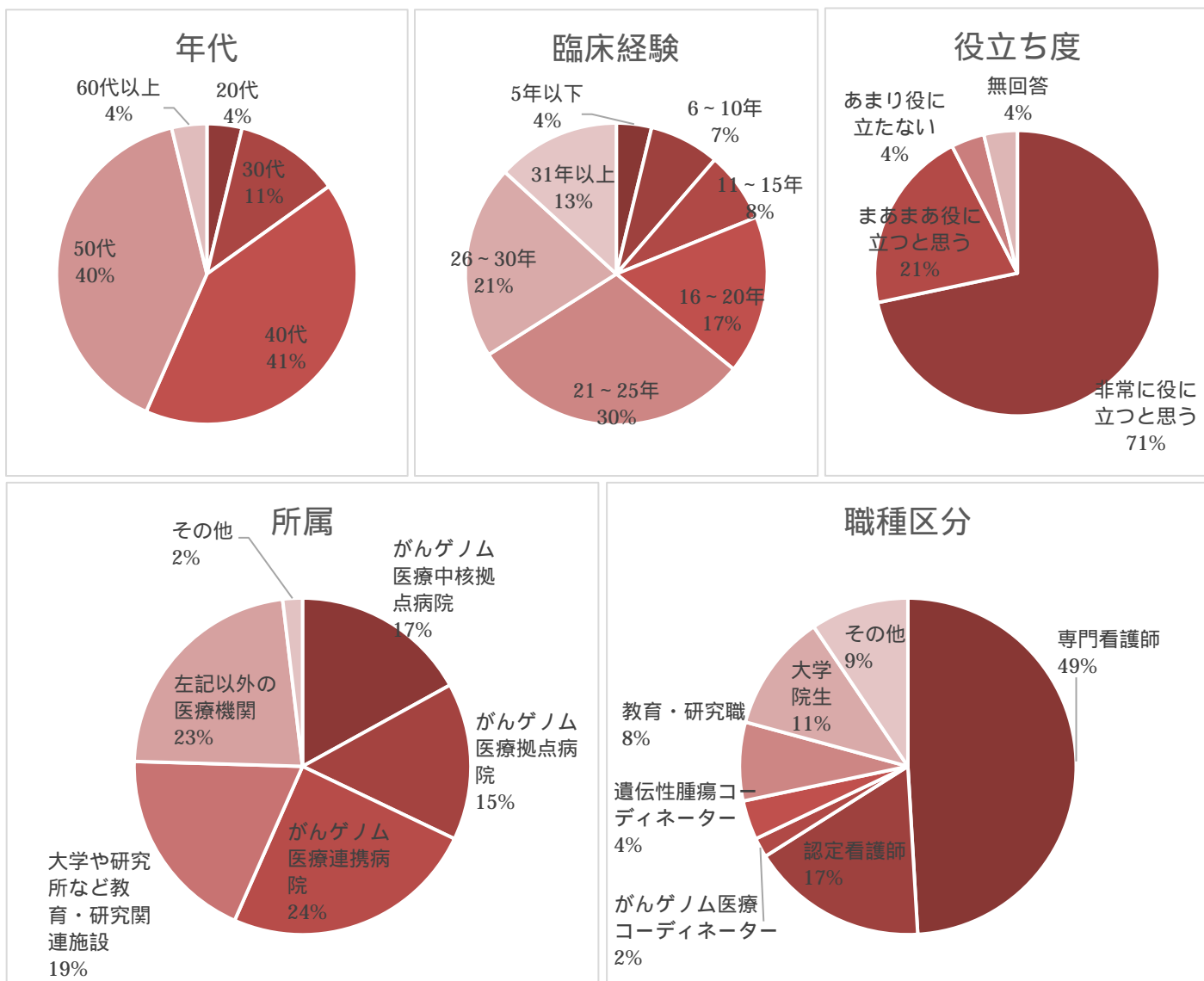


<概要>

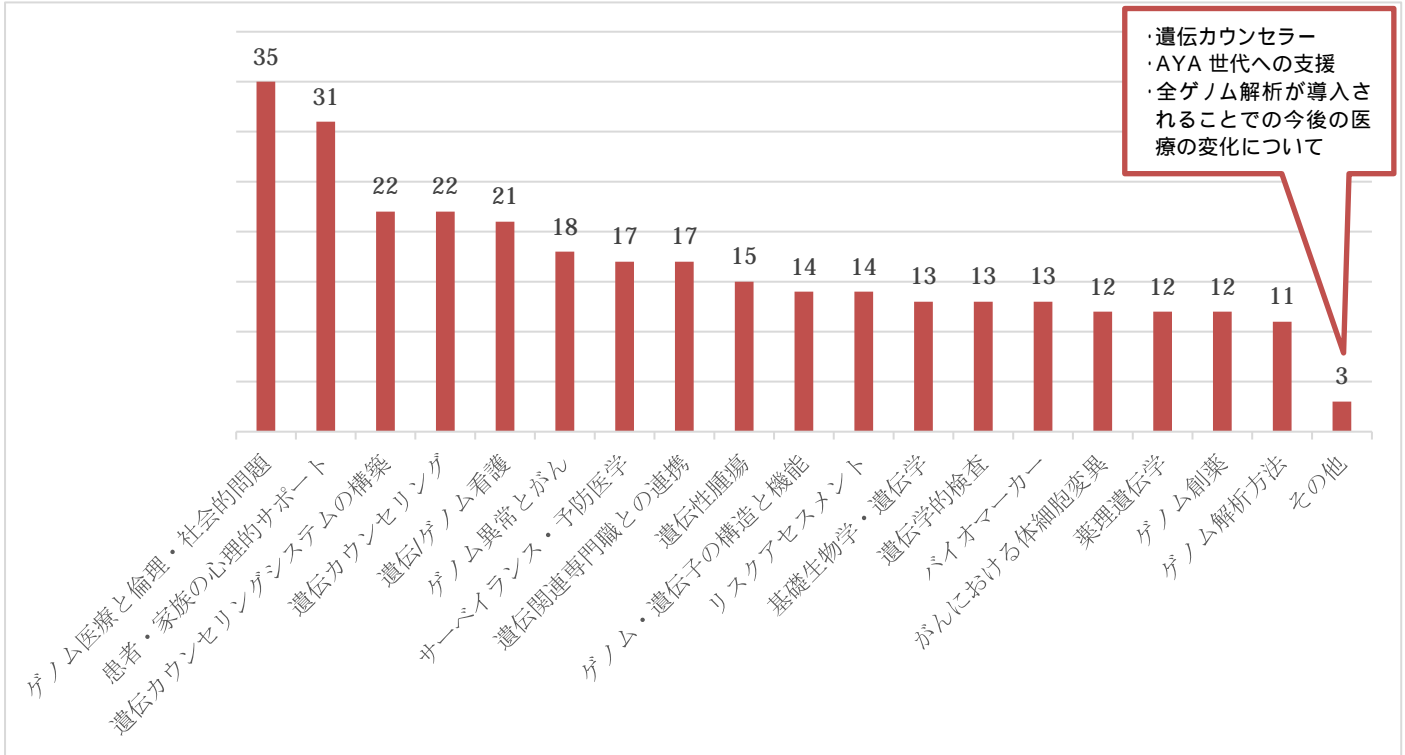
岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 臨床遺伝子医療学 教授平沢 晃先生から「がんゲノム医療における分子生物学的特徴に基づいた治療戦略~婦人科腫瘍を中心に~」として、「がんゲノム医学/医療の考え方と最近の展開」、「婦人科がんゲノム医療における課題」、「国民のがん死低減を確実にするために」の3つのAgendaを中心にご講義いただきました。後半にはリスク低減の事例をもとに参加者でグループディスカッションを行い、家族歴のヒアリングの大切さや難しさ、考え方の方向性、大事すべきことなどについて話し合ったり、確認をしたりして、がんゲノムの視点から婦人科腫瘍の治療戦略について考える貴重な時間となりました。

<アンケート結果>

参加者について



●今後、セミナーに期待するテーマ



・遺伝カウンセラー
 ・AYA 世代への支援
 ・全ゲノム解析が導入されることでの今後の医療の変化について

●参加者からのコメントより

▼今回のセミナーで、あなたが感じたこと、印象に残ったことがあれば自由にお書きください。

ゲノム医療

- ・ 貴重な機会をありがとうございました。数年後に全ゲノム解析となった場合、がん以外の多くの診療科との連携が必要となってくるのだと感じました。また家族歴聴取に関しても、医療者および患者への啓蒙活動がこれまで以上に重要となってくると感じました。
- ・ がんと診断されたときから遺伝医療が始まる。わかることで救える命がある、予防できる。デメリットを考えてしまっていたが、メリットが大きいことを改めて知りました。
- ・ 遺伝医療に対する理解が深まりました。「診断されたときからの遺伝診療」がかなうといいなと、推進して参りたいと感じました。
- ・ 病的バリエーションが判明した場合は、血縁者に関係することなので陽性、陰性であっても知るメリットはあると思います。ただ现阶段の日本では、遺伝という言葉は侵襲的側面もあると思いますので、患者さんと家族にどのように受け止められているのかを把握し、疑問や不安を言語化できるケアが重要だと思いました。
- ・ 遺伝子情報はその方だけのものではない、救える命があるということ、陽性でも陰性でも知るメリットはあるという事を学びました。
- ・ 「確実に救える命がある」という点で、自分は直接ゲノム医療に携わっておらず勉強不足の状況ですが、病院の使命に基づいてゲノム医療を推進する職員を育成していく必要があると強く感じました。
- ・ がんゲノム医療が予防医療につながっていくことを、今回の研修で現実のものとして受け止めることができました。
- ・ ゲノム医療の歴史や、現状が大変よく分かりました。先生の熱い思いが動かしてきたんだと感銘を受けました。
- ・ がんゲノム医療における結果の活用
- ・ 厚労省が再来年くらいに全ゲノム解析を国策として行うということ
- ・ 予防医療の大切さ
- ・ HBOC 診療の歴史

ゲノム医療と難病

- ・ 難病とがんもゲノム医療がシームレスになってくるとのこと。難病のゲノム医療と考えると、がんより長く付き合っていく必要が出てくると、がん化する難病もあるので発症予防あるいは発症しても悪化させない医療の役割が求められると思いました。

- ・ 難病もがんも遺伝子でケアや治療に生かしていくこと。
- ・ 難病もゲノム医療の対象疾患であること
- ・ 難病にも遺伝子診断の拠点病院が出来る様になること
- ・ ゲノム医療に関して、がんも難病も一緒に扱っていくということが印象的でした。今後 CNS として現場に戻った際には、がんのみならず、難病の知識も必要であり、考え方を柔軟に変えていくことが必要だと感じました。
- ・ また、RRSO について、「切除することが倫理的」という言葉が印象的でした。通常は腫瘍がない臓器を切除するという事は、倫理的にどうなのか？と思いますが、予防手術においては違うということ学びました。医療の発展に伴い、倫理観の持ちかたも柔軟に変えていく必要性を痛感しました。

看護師の役割

- ・ 看護師として、遺伝相談でも患者さんの気がかりをキャッチしてつなぐことが重要である
- ・ 本人にとっての医学的メリットを説明し、本人の命を救うために、という目的のために看護師としての役割を果たしていくことが大切だと改めて学んだ。
- ・ 看護師の情報を持っていることで救える命につながることを思っ、意見をどんどん言うことにします。
- ・ 「家系図」のかける看護師を育てたいですね。
- ・ 全ゲノム解析の時代が始まるのが非常に近くなっていることを知り、看護師もゲノム医療とは何か最低限の知識を身につけておく必要があると思いました。

患者対応

- ・ 平澤先生の熱い思いが伝わりました。RRSO を行った後の患者さんのアフターケアに難渋しています。
- ・ 「がんと診断した時から遺伝診療が始まる。」家族歴聴取が大切になってくると思いました。
- ・ 遺伝子病的バリエーション保持者であることを知る事は、発症するかしないかの不確かさを背負う事であり、その人の相当な覚悟があることだとあらためて考えさせられました。その人と血縁者との関係性やその先の暮らし、心境、価値観、死生観を大きく変えることを忘れずに支援したいと考えました。
- ・ 患者さんではなく、お子さんなど下の世代に目が行きがち
- ・ BRCA 陰性でも p53 遺伝子がわかることで、本人や家族のがん予防につながる可能性があることを理解し、診断時から多くの患者に適応が広がること。
- ・ がんゲノム医療により、がんが遺伝性であることがわかるメリット、たとえば治療法の選択肢の拡大や最適化、本人・家族のがん予防など確かにあると感じた。しかし、その背景にある患者・家族の思いや意思決定の過程を支えられるよう環境調整が重要と感じた。

ディスカッション

- ・ 事例検討の意見交換が勉強になった。
- ・ 事例検討のお話は、患者様個々に異なる価値観を知ることができました。
- ・ ブレイクルームでのディスカッションは他施設の方と意見交換ができ、とても有意義だと思いました。
- ・ グループワークでの発言や議論がとても鋭い意見交換で感嘆した。忌憚のない意見が出ていたと思えた。

その他

- ・ 実際の事例を用いながら、ディスカッションを通してがんゲノム医療について学ぶ事が出来ました。ありがとうございました。
- ・ 座っていても、当事者や患者はこない、声は届かない、その通りだと思いました。明日から、もっと動きます！
- ・ 確実に救える命がある、ということが印象に残りました。手をこまねいているのではなく、動いていかなければと感じました。
- ・ 今回のセミナーに関わる臨床経験がないので、貴重な情報をいただき学習になりました。これからの動向からも、大学院生ともども学びを深める必要があると思いました。
- ・ 講師の先生の講義は大変勉強になりました。中でも、実際の事例を紹介いただいたことで具体的にイメージすることができました。
- ・ 医師からの話は聞くことが多いが、遺伝カウンセラーや看護師の実際の場面を見学したい

▼がんゲノム医療の中で担っている役割についてお聞かせください。

がんゲノムコーディネーターなどのがんゲノム医療専門

- ・ がんゲノム医療連携病院に勤務しており、がんゲノム医療コーディネーターとして、医師の説明に同席したり、患者様の相談を受けたりしている。
- ・ ゲノムコーディネーター、germline findings の対応
- ・ がんゲノム医療コーディネーターであり、がんゲノム医療外来の体制整備に関わるチームメンバーとしての役割を担っております。
- ・ がんゲノム医療コーディネーター
- ・ がんゲノム医療外来担当
- ・ ゲノム医療コーディネーター

がんゲノム医療専門以外

- ・ 看護師という職種は患者さんに身近な存在であり、様々な意思決定を支援していくことが求められると思います。そのためには、がんゲノムに関する知識を深め、また他職種との連携を十分に図ることが求められると思います。
- ・ 患者さんや家族から相談された場合に主治医と相談し、がん相談支援センターと連携してがんゲノム医療病院への受診につなぐ。
- ・ がん患者指導管理料（がん患者カウンセリング）の中で、遺伝性腫瘍やゲノム医療の話題を相談されることがあります。
- ・ 遺伝学的検査や遺伝子検査の意思決定に必要な情報の整理や意思決定プロセスでの心理的サポート
- ・ 乳がん診療の場面で、両側乳房切除術や術式選択において相談にのることが多い。
- ・ 婦人科および乳腺外科外来での治療などの意思決定に携わっています。
- ・ 理解の確認、家族歴の確認、意志決定支援、ゲノム提案について医師へ提案
- ・ 遺伝カウンセリング外来に同席し、理解や精神面でのサポートをしています。
- ・ 外来での面談時になるべく同席するようこころがけています
- ・ 相談対応の中での情報整理、医師の説明補助
- ・ がん相談等での患者・家族の相談対応
- ・ がん相談担当を兼任している
- ・ 検査前後の補助説明
- ・ 看護相談で対応している
- ・ 一般的ながん相談

院内教育、体制整備、管理

- ・ がんゲノム外来の運営～診療の補助：がんゲノム医療コーディネーターとして問診・家族歴の聴取、がんゲノムパネル検査の検査内容、スケジュール、料金、治験に結びつく割合などの説明の補助ならびに、結果説明時のICの同席、IC後の説明の補助、ゲノム外来後の相談窓口の紹介（がん看護外来、がん相談支援センター）、治験がある場合は治験に向けた患者さんの精神的サポート、必要に合わせて主治医・各診療科看護師へのサポートの依頼なども行っています。がんゲノム医療推進のためワーキング活動：診療科の医師に向けたがんゲノム診療の進捗状況、診療科看護師への勉強会など
- ・ 院内体制整備、院内教育、地域医療機関の方への学習機会の提供
- ・ 管理者として職員を配置する立場です（直接かかわっていない）
- ・ 今後、自施設においてどのようなシステムが望ましいか委員会に参加し意見交換を行っている。
- ・ 研修など

その他

- ・ 今は教育ですが、臨床で得たもの後輩に伝えること。
- ・ 和歌山医大がんゲノム医療に本年度登録を致しました。
- ・ 倫理審査委員会での審査、がんCNSコース教育、がんプロ企画

- ・ 現在は院生で学ぶ立場ですが、世の中に発信していく役割と、意思決定支援する役割があると感じます。
- ・ あまり関わっていません。これから担える人材になります。
- ・ 今は直接かかわっていない。

▼がんゲノム医療を推進する上で、課題と感じていることについてお聞かせください。

経済的、金銭的な問題

- ・ BRCA 遺伝学的検査が陰性でも、遺伝性腫瘍が疑われる方が多くおられます。マルチジーンパネル検査が自費であるハードルが高いです。また未発症の方が、遺伝子の病的バリエーションを持っていた際に、自費で継続的なサーベイランスをする困難さを感じています。この点も、保険適応を希望します。
- ・ コスト・パフォーマンスの課題があると感じます。エキスパートパネルにおいても、開催するにあたっての準備における人件費などが高いという話も聞きます。また、診断される確率が 1 割ということで、多いとも取れるとは思いますが、全症例実施するとなった場合、費用対効果をどう確保していくかの課題があるように感じます。
- ・ 本日のお話にもありましたが、遺伝子に変異があっても、発症していないと保険外になるため、金銭的に余裕がないとサポートが少ないこと。
- ・ 治療に繋がったとしても、自費だと払えない。そこでまた新たな悩みが生じる。申し込み可能な時期。
- ・ 予防的治療が保険適応になることが望ましいと考えます。
- ・ 予防という観点で保険が適応されるかどうか。
- ・ 現在の保険適用上の限界

スキル、知識、教育

- ・ 患者・家族どころか、現場の医療者にも、まだまだ浸透していないと感じることが多く、現場のスタッフに、緩和ケアと同様に「診断時からのゲノム医療」を浸透させる必要があると思う。また、診断時に保険適応で検査が受けられないこともハードルが高いと感じます。
- ・ 医療者の理解を促すこと、医師によってはゲノム外来を紹介するときに、夢や希望があるような言い方をされるので、実際にゲノム外来を受診され、確率が低いことを知りショックを受けられるかたが多い。医師からの説明のあと、患者のフォローをだれがどのように行うか、自分自身も含めもっと勉強して誰もが支援できるようにすることが課題だと思います。
- ・ 患者だけでなく、多くの医療スタッフもゲノム医療に関する知識や興味・関心が乏しいように感じ、その意識改革をどのようにするのが 1 番効果的なのか、課題に感じます。
- ・ 遺伝子病的バリエーション保持者に対するケアシステムにおいて、当院は遺伝診療部と主診療科での医師同士の連携はあるが、外来診療科看護師が積極的にケアに参加できていない現状がある。このため診療科看護師へのがんゲノム医療の教育が課題と考えています。
- ・ がんゲノムパネル検査で遺伝子の異常がみつかったとしても治療がないことが多く、標準治療を終了する段階での検査の恩恵は少ないように思う。また HBOC の拾い上げ検査の意義や術式選択で患者に説明するためのツールが少なく、手に取ればよくわかるような冊子が増えるといいなと思います。
- ・ その人の「知りたくない」という考えや価値観と、医療者として考える「知ることによるメリット」との間での葛藤。
- ・ 医療者や患者・家族への啓もう活動（正しい情報+年々変化していく情報を知ってもらう）
- ・ 医療スタッフの知識の向上、患者・家族への情報提供がまだ進んでいない
- ・ 医療従事者がゲノム医療について、基本的な概要を理解するところ。
- ・ 紹介はしていても実際を知らないなので説明できているのか不確か。
- ・ 医療者の認識、知識不足。
- ・ 医療者の知識習得
- ・ 知識

組織、体制、システム

- ・ 自施設で、がんゲノム医療の体制整備に関する協力を得られにくく、必要な人員・場所を確保できていない。がん遺伝子パネル検査で遺伝カウンセリングを推奨されても、施設内の体制が整っていないため、遺伝カウンセリングにつながっていない。

- ・ がんゲノム医療における看護の役割を管理職に認識してもらうこと（必要性や重要性を管理者に認識してもらえなければ、人材は配置されない）
- ・ 医師は遺伝カウンセラーがいないと医師以外で相談に乗れる職種がいなくて感じている人も多い。そのため、医師と患者の2者間のみで意思決定されていることがある。よって、医師の誘導や認識による差が生じやすいと感じています。また、ゲノム情報管理が適切になされているか疑問も残ります。
- ・ がんゲノムに従事している看護師が、臨床で困っていることや課題と考えることなど情報共有できる場をぜひ作れたらと思います。
- ・ コーディネーターをとっていますが、病棟での活動ができていないので、活動できるようにはげみたいです。
- ・ 遺伝情報の共有では、患者さんとご家族への情報の伝え方や伝えたあとのサポート体制が課題だと考えます。
- ・ 電子カルテの仕様を、ゲノム医療にあうよう各ベンダーも検討してほしい。
- ・ 院内の人材育成、確保
- ・ 病院としての体制
- ・ 職種・施設を超えた連携体制
- ・ 検査のフロー簡素化
- ・ 多職種でのチーム医療

患者対応

- ・ 患者さんや家族の理解が追いついていない中で治療方針決定や意思決定支援に課題を感じている
- ・ 家族への説明を望んでいた患者さんが、結果が出る前に亡くなる場合、残された家族への倫理面を考慮した接し方等について
- ・ 一般の方に、遺伝性疾患に関する知識や意思決定支援に課題があると感じます。（分かっている方も多いたと思いますが、その方にどのように関わるかなど）
- ・ がんの告知や再発、不安がある方への対応をしており、遺伝に関する説明の場にも立ち会うことが多々あります。最近では、知ることの不利益を不安に思われる方は少なく、積極的に検査をされていますが、PARP阻害剤を検討するために前立腺癌の方なども検査されていくことが想定され、今中心になっている婦人科乳腺外科だけでは家族のフォローも出来ないことを危惧しています。ご家族の自費でのサーベイランスも相談していますが、こぼれることなく検査やサーベイランスに繋げていくにはまだ広報も足りていないため、多職種カンファレンスでも検討していきたいです。
- ・ 検査を受けようか受けまいか悩んでいる方の気持ちに配慮すべき点が足りているのか、配慮すべきポイントや聞き方の工夫ができるのではないかと思う
- ・ がんゲノム医療に関する知識や理解について知ることや、意思決定に必要な情報提供の方法や理解を促進すること
- ・ がん遺伝子パネル検査を行っても治療にたどり着ける可能性が低いことに葛藤を感じる。
- ・ 治療が優先される中で、遺伝子に関する話にまでたどり着く関わり方
- ・ 救える命への貢献に努め、日々研鑽していきたいです。
- ・ 3世代の家系図記載もできないのが現状です。
- ・ 患者が本音を出していけること

▼ご意見、ご感想がありましたら、お願いします。

講義について

- ・ 平沢先生のご講義にもありました、がんゲノム医療の発展によりがん死低減が確実になればと思います。今回の学びから当院の課題を改善できるよう取り組みたいと考えます。ありがとうございました。
- ・ 有難うございました。いつも大変勉強になります。
- ・ 大変勉強になりました。どうもありがとうございます。
- ・ 明日から改めてがんばろうと思いました。貴重なご講義をどうもありがとうございました。
- ・ 刺激を頂きました。ありがとうございました。

グループワーク

- ・ 毎回、新しい知見を知ることができたり、知識を得ることができ、楽しみに受講しています。グループワー

クも短い時間で気軽に参加でき、他院の方の意見も聞くことができたり、情報交換できたり、有意義に感じています。ありがとうございます。これからも、このような研修を継続していただけるとありがたいです。

- ・ ディスカッションの時間が短いと感じました。

運営・スタッフについて

- ・ 本セミナーは、毎回楽しみにしてきました。
- ・ 本日はありがとうございました。ぜひ、今後もこのような機会があれば参加させていただきたいです。
- ・ 所用があり、1時間の参加になり残念でした。もう少し、基礎的な遺伝学的な部分の知識を得たかったです。運営等ありがとうございます。
- ・ 兵庫県立大学で開催されているセミナーはとても質が高く、毎回大変勉強になります。
- ・ 本日のセミナーを企画・運営いただき本当にありがとうございます。感謝いたします。
- ・ ご準備されたスタッフの方々へ、ありがとうございました。
- ・ いつも興味深いテーマを取り上げていただき、ありがとうございます。
- ・ 貴重な研修会を開催いただきありがとうございました。
- ・ このような機会を頂き、感謝いたします。ありがとうございました。
- ・ 今後もこのようなセミナーを継続していただきたいと思います。ありがとうございました。
- ・ このような学習の機会をいただきありがとうございます。

Zoom

- ・ グループワークの際、音声繋がらず参加できませんでした。
- ・ 何度か退室して調整しましたが、参加できずご迷惑をおかけいたしました。

その他

- ・ がんプロ終了後も何らかの形で、新しいトピックスの普及をお願いします。